

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 本年度は、学校課題研修で特別活動を中心に学級経営の基礎基本について全教員で学ぶことができた。学校教育目標をもとにして、学級教育目標を作成するために、児童の思い、保護者の願いそして担任の思いを加えて立てることにより、それをもとに児童一人一人が個人目標を立てやすくなったように思う。児童にとっては学校教育目標がより身近に感じられたはずである。来年度は100%浸透できるようにする。
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 今年度は、学校教育目標について積極的に伝えてきたが、保護者には細かい教育方針までは伝わりにくいところがあるようだ。引き続き学校の見える化を推進し、広く公開、発信できるようにして学校の方針が浸透できるようにしたい。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・保護者に配布する学校だよりは、データ配布していただいて手元で見られることは大変よいことであると思う。地域への配布については、紙ベースになると思うが、できる限り早く自治会の目に触れるようにすることで、学校教育目標を広く周知することができるであろう。 ・地域の方々に広く授業を参観できるようにすることで、併せて、学校教育目標も周知できることにつながると思う。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果についての分析・課題 今年度の学校課題研修は特別活動であり、「望ましい集団活動」の充実のために学級経営の基礎基本を学んできた。これほど学級経営に特化して学ぶ機会はいまだなかった。若い教師が急激に増加する中、集団活動の基盤となる学級経営をしっかり学ぶ機会をこれからも設けていきたい。児童の学級生活の充実感の向上には成果があらわれている。
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □系列1 □系列2 □系列3 □系列4 □系列5	課題解決への方策 学校が楽しいと思い、学校生活を送ることは、教師として大変うれしいことである。今年度の研究の成果をまとめ、さらに学級生活の充実と向上を図れるよう、研鑽を重ね、これからも「望ましい集団活動」※に取り組んでいきたい。
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ※望ましい集団活動の条件(上記の内容を下記に示す。) ア 活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること。 イ 活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え、話し合い、それを協力して実践できること。 ウ 一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通に理解し、自分の役割や責任を果たすとともに、活動の目標について振り返り、生かすことができること。 エ 一人一人の自発的な思いや願いが尊重され、互いの心理的な結び付きが強いこと。 オ 成員相互の間に所属感や所属意識、連帯感や連帯意識があること。 カ 集団の中で、互いのよさを認め合うことができ、自由な意見交換や相互の関係が助長されるようになっていること。
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	・「学校が楽しい」と感じている児童が多いことを、保護者皆さんにも理解が得られるように、学校だよりや学年だより等で子ども達の様子をたくさん伝えられるように努力してほしい。ホームページでは日々の様子を伝えていただき感謝する。

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果についての分析・課題 年度当初、本校児童の課題の一つとして、「主体性」が挙げられていた。本校教員は、主体的に学ぶ態度が育ったならば、学力が伸びることを信じて「学び合い学習」に取り組んできた。教科(いわゆる目に見える数値に表せる学力)と道徳や特別活動(いわゆる目に見えない数値化できない力＝非認知能力)で育てなければならない力の両者とも大切であることを研修を通して理解したことが今年度の大きな成果である。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策 児童自身は、「学び合い学習」が楽しいことはわかるが、大切であるところまでは思いが行きついていない。来年度に向けて、学力と非認知能力の両輪を伸ばすことに個々が喜びを感じられるような指導法の改善に努める研修に取り組んでいきたい。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・授業参観をさせていただき、昼食後の眠くなる時間帯にも関わらず、元気に集中して授業を受けている様子を見られて非常に感謝している。 ・教師の評価で①が少なく②が多いのは、要求水準が高く、自分なりに努力しているからと考える。地域の住民としても期待している。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 ICT機器の充実は、今年度大きく前進した。しかし、まだ、教師の力量に差があることは否めない。個々や学年間で使用頻度の差があることは、学力向上にも差が出てくると懸念している。家庭学習でも使用しているはずであるが、保護者が、「わからない」に複数回答しているということは、まだまだ活用法が浸透していないという課題が見えてきた。
	児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 児童のICT活用能力は教員よりも高まる速度が速い。よって、トラブルが起きた際も、教師が対応できずさらに課題が大きくなるという懸念がある。今年度以上に、特にICT機器の活用に不安を感じる教師を中心に、積極的に研修に出るように促していきたい。また、ICT活用ボランティアを積極的に導入していきたい。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ・評価結果から、児童はICTを活用した授業を楽しむにしている様子が見える。教師は大変であるが時代の流れから進めるべきであると考え。 ・家庭での活用方法が浸透するように、得意な保護者の方やICT支援員に勉強会を開いていただくような手だてが必要と考える。
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	afterコロナの時代を迎え、体育的行事も復活してきた。学力と同様、コロナ禍で低下しつつある児童の体力は、引き続き課題を焦点化しつつ伸ばせるように努めていきたい。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	本校の体力は、市や県と比較しても高い方である。業間休みに、外に出て思い切り体を動かすことは体力向上につながってると考える。また、引き続き、体育的行事(運動会、マラソン記録会、長縄記録会等)も、児童の主体的活動に導けるように、適切に配置を考えていきたい。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・体力向上は、免疫力アップにつながることであり、積極的に進めていただきたい。 ・体育を苦手としている児童もいると思うので、業間の休みは工夫して活用すべき。無理ではなく少しずつ外に出る指導も必要と考える。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察													
生徒指導 ①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>30%</td></tr><tr><td>②</td><td>70%</td></tr><tr><td>③</td><td>0%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	30%	②	70%	③	0%	④	0%	⑤	0%	評価結果 について の分析・課題	本校の生徒指導上の課題は少ないとは言えないが、本校職員は家庭と関係機関との連携を密にし、児童への愛情を大切にしつつ、早期発見・早期対応に努めている。
	評価項目	割合															
	①	30%															
	②	70%															
③	0%																
④	0%																
⑤	0%																
児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>61%</td></tr><tr><td>②</td><td>27%</td></tr><tr><td>③</td><td>8%</td></tr><tr><td>④</td><td>4%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	61%	②	27%	③	8%	④	4%	⑤	0%	課題解決 への方策	放課後の職務が、ほぼ生徒指導上の課題対応に追われることが多い現状である。学校で起きたトラブルは学校内で児童に寄り添い、しっかり聞き取りを行うこととしている。家庭や地域で起こったトラブル等は、家庭同士で解決できるようにこれからも呼びかけていきたい。	
評価項目	割合																
①	61%																
②	27%																
③	8%																
④	4%																
⑤	0%																
保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>21%</td></tr><tr><td>②</td><td>54%</td></tr><tr><td>③</td><td>8%</td></tr><tr><td>④</td><td>7%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>10%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	21%	②	54%	③	8%	④	7%	⑤	10%	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・元気な挨拶をいつも返してくれる。そういうところから、地域とつながり、いじめやトラブルを早期に発見できると考える。 ・あいさつ運動や防犯パトロールや清掃活動(学校内外)等を児童・先生・保護者・地域で取り組むことで温かい地域にできると感じる。	
評価項目	割合																
①	21%																
②	54%																
③	8%																
④	7%																
⑤	10%																
地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	<table><tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr><tr><td>①</td><td>16%</td></tr><tr><td>②</td><td>58%</td></tr><tr><td>③</td><td>11%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>16%</td></tr></table>	評価項目	割合	①	16%	②	58%	③	11%	④	0%	⑤	16%			
評価項目	割合																
①	16%																
②	58%																
③	11%																
④	0%																
⑤	16%																

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果 についての 分析・課 題	人それぞれよさや可能性は違い、個性と個性がぶつかり合いトラブルになることもある。集団生活では当たり前のことである。日々、トラブルが少なくない中、学校が楽しく、友達と仲良く遊ぶことを求めている本校の児童のたくましさは今までの指導の成果であると考ええる。
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決 への方策	本年度研究に取り組んできた、「望ましい集団活動」について、これからも意識して学校生活を送れるよう指導していきたい。例えば、学級活動、学年行事、学校行事、委員会活動、クラブ活動などである。それぞれの集団活動の特質を十分理解しながら計画を立て、児童自らが主体的に活動に望むことができるように導いていきたい。
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・地域も協力できることといえば、学校行事を一緒に行うことや、地域の方々とふれ合う活動を計画することで、児童の良さが見られ、地域とつながり、温かい雰囲気の地域ができると考える。
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果 についての 分析・課 題	「望ましい集団活動」とは、個を大切にした学級指導から始まる。教師自身が実践することで、温かい雰囲気のある学級集団が育つ。1年間の研究で学んできたことである。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決 への方策	一人一人の子ども達に寄り添う指導ができなければ、児童が教師に相談したいとは思わない。児童自身が相談しやすい雰囲気を作れるような学級経営を目指す。また、子ども達同士が相談し合えるような学級集団を築けるように、これからも研鑽に励み、学級経営の基礎基本を学んでいく。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・これまでも多くの授業を参観させていただき、友達の良いところを発表し合う機会を作ってくさっている先生がいた。学年を超えてそのような取り組みをしていただくことで、より一人一人を尊重した学校経営ができると考える。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		

新町

小学校

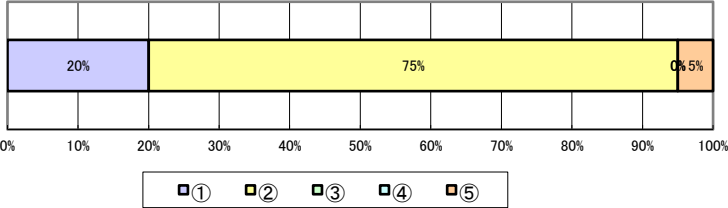
評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果 についての 分析・課 題	学校運営協議会・学校応援団の意義についての研修は担任の教員はなかなか参加できず、理解までつながらないのが現状である。
	児童			課題解決 への方策	学校運営協議会や学校応援団の会議は、管理職と地域の方だけの交流の場ではない。研修動画を積極的に視聴するように促し、毎回担任も参加できるようなシステムも模索していきたい。また、熟議を積極的に取り入れ、鶴ヶ島市が理想とする「地域とともにある学校(地域の方が一緒になって作り上げる学校)」を推進していきたい。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	・地域の方々が身近に感じやすい環境づくりをしていただきたい。例えば、児童と一緒にあいさつ運動、除草作業、防災訓練、レクリエーション等である。また、どのような時間や、放課後等を活用して、地域の方々と意見交換ができる場を設定できると理解が深まると感じる。
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		

新町

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない 地域19/25
④そう思わない ⑤わからない・無答 児童374/417 保護者224/313

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
働 き 方 改 革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。		評価結果 について の分析・課 題	働き方改革では、放課後の時間の工面ができないことにより、教材研究の時間の確保が難しいことが現状である。水曜日のノー残業デーも実質名前だけににならないように工夫改善をしていきたい。
	児童			課題解決 への方策	トップダウンでは、働き方改革はなかなか難しいことが言われている。ボトムアップで出てきた意見は、ノー残業デーを個人で考えるというものであった(1週間のうち早く帰りたい日に、職員の目に入る所に印をつける)。今後も、職員が働きやすい環境を作っていくため、ボトムアップの意見を大切にしていきたい。
	保護者			学校関係 者評価委 員会によ る評価	・引き続き、教員が働きやすい環境を作っていただきたい。 ・18:00には電話を留守電にすることはわかっているが、緊急の方もいると思うので、できることであれば18:00以降も出てほしい。
	地域				